オンラインHDF 、オフラインHDFなど、さまざまな種類の透析に対応

3. 患者教育

全透析患者対象の「透析教室」を毎月開催
病気の理解、治療への積極的参加を促す

岸田理事長が治療アドヒアランスに特に注力するようになったのは、岸田クリニックで診療を行うようになって２年目頃だったという。

「最初に疑問に思ったのは、患者さんの状態を精査したうえで薬の処方や生活指導を行っているにもかかわらず、期待通りに改善しないのはなぜか、ということでした。そこで患者さんが薬を飲めていないのではないかと考え、聞いてみると、案の定、『飲みにくい』『飲み忘れる』などと答える人が多かったのです。その背景には、患者さんに薬の意味をきちんと理解していただく前に、医師が選んだ薬を処方してしまっているという私たち側の問題があると気づかされました 」と、岸田理事長が約８年前を振り返る。

「薬をきちんと飲んでいただくためには、患者さんに薬について知っていただき、自分で選んでいただく必要がある」と考えた岸田理事長は、さっそく全透析患者を対象とした月一回（同じ講義を月クールと火クールにそれぞれ実施）の「透析教室」に取り組んだ。スタッフ教育も兼ねて、講師は事務職も含めた全スタッフの持ち回りに。薬に限らず治療の全体を理解してもらうために、あらゆるテーマを取り入れることとした。この透析教室は現在まで、毎月１回のペースで継続している。午前透析の終了後から午後透析の開始前、患者が最も多く集まる時間帯に毎回約10分間講義をし、５分間の質問時間も設けている。参加できなかった患者で希望者には資料を配布している。

「透析とは何か」といった基本的な知識から、「水分の摂り方」「入浴の仕方」など日常生活のポイント、ときには「ベッドメイキング」など透析室でのスタッフの仕事の紹介などもしながら、「薬の役割」「新薬の紹介」などの講義も行っている。